

DiskKiller

for DOS/V

取扱説明書

1.1 製品構成

1) パッケージの中身をご確認下さい。

「Disk Killer」のパッケージには、以下のものが入っています。予めご確認の上、ご利用下さい。また、不足しているものがありましたら、お手数でもユーザーサポート宛にご連絡下さいますようお願いいたします（巻末をご参照下さい）。

- ・ FD 2枚
- ・ 取扱説明書
- ・ ユーザー登録カード

製造番号は、本書表紙に製造番号シールに記載されています。

ユーザー登録は、当社ホームページ上でも行っております。恐れ入りますが、できるだけオンライン登録をご利用下さい。なお、処理の都合上混乱いたしますので、オンライン登録と葉書での二重登録はご遠慮下さい。

2) インターネットを使ったユーザー登録の方法

<http://www.dnki.co.jp/hoihoi/userreg.html>

下図のようなページが表示されます。

当社ホームページのこの画面に直接入力して下さい。入力が終わって送信する場合は「送信」を、再入力する場合は「クリアー」を押して再記入します。

1.2 動作環境

「Disk Killer」の動作環境は以下の通りです。

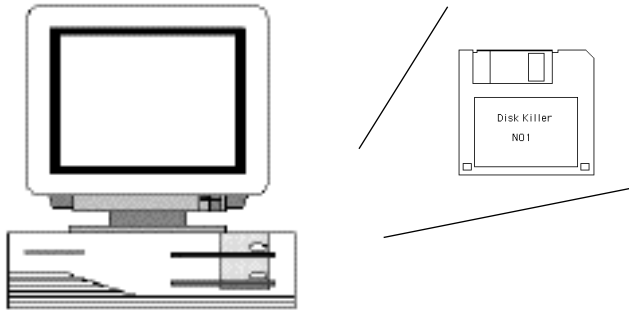
DOS/V パソコン (IBMPC 互換機)
IDE/SCSIタイプハードディスク
386SX 以上 (Pentium 互換)
メモリ 8 MByte以上のメインメモリ
VGA 以上のモニター
3.5 インチFDD (1.44Mbyte)

「Disk Killer」には、3種類のタイプがあります。

- 1.Compact版-----制限回数5回
- 2.Medium版-----制限回数30回
- 3.Delux版-----制限回数制限なし、複数台同時使用可能

2.1 導入

- (1) 主電源を入れFDのNO1 (Boot) ディスクを入れます。
NO1 (Boot) ディスクによりパソコンが立ち上がります。



- (2) NO1 (Boot) ディスクによってパソコンが起動します。
モニタが目まぐるしく動きますが、一旦下図で止まります。

```
Welcome to the Slackware Linux(v.3.6.0) bootdisk!  
  
Disk Killer Ver1.0  
(C)2001.DenkiHonpo.  
  
boot :
```

「boot」の表示後、「Enter」key を押して下さい。

(3) 太字のメッセージが表示されたら、NO2 (Boot) ディスクと差し換えて下さい。

<pre>Failed initialization of WD-7000 SCSI caed! EATA0:address 0x1f0 in use,skipping probe. EATA0:address 0x170 in use,skipping probe. ppa:Version1.42 partition check: hda:hda1 hda2 <hda5> VFS:Insert root floopydisk to be loaded into ramdisk and press Enter.</pre>	<p>マシンにより表示がかわります。ご注意ください。</p>
---	--------------------------------

NO2 (Boot) ディスクを入れたら、「Enter」を押して下さい。

(4) 本ソフトが立ち上がります

```
Disk Killer Ver.1.0 Copyright2001.DenkiHonpo,Japan
1. Mode select<Nsa,null,charSel,random>
2. Repeat del no select<1..255>
3. Disk search ¥n
4. MBR del select
5. Start delete disk
6. quit

select<1..6>
```

本ソフトはフロッピーディスクに収まるようにコンパクトに仕上げています。この結果、Windows に慣れたユーザには違和感があります。ご注意ください。

メモリを消耗するグラフィックスを排除している。

漢字の使用を抑制している。

3. 簡単な使い方

本ソフトのメニューを説明します。

Disk Killer Ver.1.0 Copyright2001.DenkiHonpo,Japan

- | | | |
|---|-------|-------------|
| 1. Mode select<Nsa,null,charSel,random> | | 消去方式指定 |
| 2. Repeat del no select<1..255> | | 繰返消去回数指定 |
| 3. Disk search | | 当機接続のHDDを表示 |
| 4. MBR del select | | MBR消去を選択 |
| 5. Start delete disk | | 消去開始 |
| 6. quit | | |

select<1..6>

では実際に使用してみましょう。1～4までは細かい設定を行う物です。通常は指定する必要はありません。

- (1) 実際にディスクを消去しましょう。キーボードより5を入力しリターンキーを押して下さい。この時、テンキーが使えません。必ずキーボード上部の数字キーを押して下さい。

select<1..6> 5

(2) Disk Killer は、パソコンに接続しているハードディスクを検索し表示します。
 下の図は、このパソコンにハードディスクが2台接続していることを示しています。

OKはハードディスクの存在を示します。

「--」はないことを表わします。

HDD0～HDD3までは IDE規格用のハードディスク表示を担当します。

HDD4～HDD11まではSCSI 規格用の表示です。

```

DISK serch type
IDE/EIDE type
HDD0 OK
HDD1 --
HDD2 --
HDD3 --

SCSI type
HDD4 OK
HDD5 --

  {}
HDD11 --

Delete HDD ALL,HDD0..3,Cancel<A/0..11/C>
    
```

(2) Disk Killer は、パソコンに接続しているハードディスクを検索し表示します。
 ここで消去したいハードディスクを指定します。
 当マニュアルではHDD4の消去を指定して説明を進めます。4を入力。

```

Delete HDD ALL,HDD0..11,Cancel <A/0..11/C> 4 
    
```

各入力の説明

- A-----ハードディスク全て(ALL)の場合
- 0～11の数字-----指定した番号のハードディスク
を消去します
- C-----キャンセル

(3) 消去確認を聞いて来ます。

```
loop=2,Mode=2,char=2,MBR-SW=0
Start OK?<Y/N>
```

Yを入力します。

```
Start OK?<Y/N> Y 
```

(4) 再度確認の問い合わせを行います。Yで開始、Nでキャンセルです。
これが最終確認です。注意。

```
Again OK? <Y/N>
```

ハードディスク消去を開始します。

強制中断はコントロールキーを押しながらCを押してください。

この時、ハードディスクは先頭よりデータが消失しています。復旧しません。

終了しましたら、パソコンの電源を切って下さい。

これで終了です。

しかし、下記のような症状がでた場合は、メニュー画面に戻り初めからスタートして下さい。

```
HDD4 start<Cancel=CTRL+C>
2278Mb
err.
Delete&Quit
```

4 . リファレンス

各機能の詳細をここでは記述します。

1 . Mode select<Nsa,null,charSel,randam>

ハードディスクの消去形式を選びます。

```

1.ZERO clear
2.user char clear
3.RAMDAM clear
4.NSA style

Mode<1..4>=

```

- 1.ZERO clear-----null (ゼロ) で書き込み消去
- 2.user char clear----charactor selection 文字を選択してで書き込み消去
- 3.RAMDAM clear----ハードディスクにランダムに書き込み消去
- 4.NSA style-----アメリカ国防総省の形式で書き込み消去
(上記 1.2.3 に比べて3倍時間がかかります。)

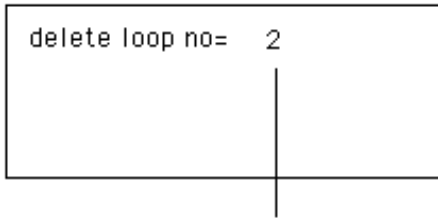
デフォルトでは、' null ' が設定されています。
通常、選択しません。

2 . Repeat del no select<1..255>

ハードディスクの消去回数を選びます。

1 ~ 255 回設定ができます。

```
delete loop no=  2
```



ここに回数(ここでは、2回)を入力します。

デフォルトでは、1回を指定しています。

3 . Disk search

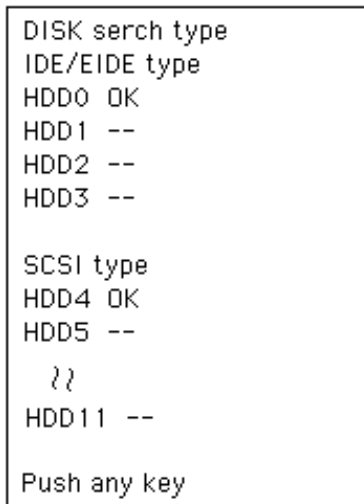
お使いのパソコンに接続しているハードディスク状況が把握できます。

```
DISK serch type
IDE/EIDE type
HDD0 OK
HDD1 --
HDD2 --
HDD3 --

SCSI type
HDD4 OK
HDD5 --

  {}
HDD11 --

Push any key
```



Enter Keyを押すとメニュー画面に戻ります。

4 . MBR del select



Yesの場合は、Y（小文字のyでもよい）を入力して下さい。
また、Noの場合は、N（小文字のnでも良い）を入力して下さい。

- Y . . . マスターブートレコードを消去する
- N . . . 同、消去しない

デフォルトでは、マスターブートレコードを削除しません

ハードディスクには先頭512バイトにハードディスク自身の情報が含まれています。この領域のことを一般的にはマスターブートレコードと言います。マスターブートレコードを消去すると、以後Windowsのインストールができなくなるなど弊害があります。通常は消去せず残しておきましょう。

マスターブートレコードは、Windowsの起動用フロッピーに入っているFDISK.EXEプログラムで復旧できます。操作が煩雑です。廃棄を前提としたより高いセキュリティを希望の方はマスターブートレコーを削除ください。

5 . Start delete disk

第3章の「簡単な使い方」を参照ください。

6 . quit

プログラムを終了します。この後、本体の電源を落として下さい。

問い合わせ

お問い合わせ先

E-MAIL **宛先** support@dnki.co.jp

TEL:03-5449-7057

(受付時間：平日10:00～17:00)

FAX:03-3447-2775

お問い合わせは、なるべくホームページのテクニカルサポートをご利用下さい。
担当者不在により、お返事が遅れる場合がありますので、あらかじめご了承下さい。

取扱説明書

平成 13 年 11 月 28 日 第 1 版